

# 第17回 京都府N I Eセミナー

## 記者の目、教師の目、読者の目

子どもたちが親しむマンガやアニメ。学びの中でマンガやアニメがどのようにかかわっているかを検証しながら、学校や家庭における付き合い方を考え、楽しみながら学びに取り入れていく可能性を探ります。さらに、日々の実践活動の中で触れる新聞記事について、それを書いた記者と、その記事を授業のために取材する社会科教員双方の視点から考察していきます。

日 時 2018年2月23日（金）  
午後3時～5時30分（開場 午後2時30分）

会 場 京都新聞社 7階文化ホール  
（〒604-8577 京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞社内）  
京都市営地下鉄「丸太町」下車、⑦番出口横に入口があります

内 容 <講 演> 「マンガやアニメの視点から、教育へのアプローチ」  
應矢 泰紀 氏（京都国際マンガミュージアム・国際マンガ研究センター研究員）  
<講 演> 「記者が書く記事、教員が取材する記事」  
宮沢 之祐 氏（向日市立寺戸中学校教諭、元神戸新聞記者）

### <講師紹介>

應矢 泰紀 氏（おおや・やすのり） 1974年、大阪府生まれ。京都精華大学大学院修了。映像作家・プロダクションとしてビデオアートやドキュメンタリー、アニメーションなどの映像作品を制作する一方、マンガのアニメーション化から分かる表現手法や、伝統芸能と特撮の関係性、ヲタクカルチャーからみえる心理的視聴覚効果について研究・発表を行う。現在、京都国際マンガミュージアム研究員で、マンガ・アニメ・イラスト・ゲーム・特撮などの展示やイベントの企画運営を行う他、国内外の大学で教鞭を執る。

宮沢 之祐 氏（みやざわ・しゅう） 1963年、京都市生まれ。同志社大学経済学部卒。京都市立中学校で社会科教諭を3年間務める。89年、神戸新聞社入社、社会部と阪神総局で主に遊軍記者として阪神・淡路大震災、神戸連続児童殺傷事件などを取材。99年、神戸新聞社を退職し、JICA（現・国際協力機構）から日系社会青年ボランティアとしてブラジルに2年間派遣。2001年、新聞社に復職。論説委員兼東播支社編集主任だった13年、同社を退社。長岡京市立長岡中学校の社会科教諭に。17年から向日市立寺戸中学校勤務。現在、京都新聞に「記事の向こうに現場が見える」を連載中。

**入場無料、どなたでも参加できます（定員 40人）**

主 催 京都府N I E推進協議会

後 援 京都府教育委員会、京都市教育委員会

京都市小学校N I E実践研究会、京都市立中学校新聞教育・N I E研究会

# 第17回 京都府N I Eセミナー

## <参加申し込み>

京都府N I E推進協議会 事務局 行  
FAX 075-241-5938

(所属・氏名)

(連絡先電話)

**※ 締め切り 2018年 2月 15日 (木)**

※ 申し込みがなくても入場いただけますが、会場準備のためなるべくお知らせください。

※ 受付済みのお知らせはいたしませんので、当日は直接会場にお越しください。

<お問い合わせ>

京都府N I E推進協議会 事務局 〒604-8577 京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞社内

電 話：075-241-5231

会場案内図 (●=地下鉄出入口)

